

松蔭 校長室だより

2023年 6月 1日 発行

—校長から保護者の皆様へのメッセージです— 松蔭中学校・松蔭高等学校
校長 浅井宣光

学校の最新ニュースはこちら <https://shoin-jhs.ac.jp/shoin-news/>

わたしたちの内なる人は、日々、新たにされていきます。(コリントの信徒への手紙 24:16 2023年度年間聖句)



<昼休みの光景。いずれも 5/26 撮影>

ポスト・コロナ禍のランチタイム 「今日、誰と食べる？」

近所にある2つの幼稚園の昼食風景が対照的だという話を聞きました。A幼稚園では、園児の昼食グループも座席もあらかじめ決められ、席の移動は禁止されています。一方のB幼稚園は、「自由遊び」ならぬ「自由昼食」。誰と食べてもかまわない「ルール」で、担任の先生も「今日はこのグループと一緒にいただきます」と臨機応変に園児のテーブルに加わります。ひとりでグループに入れない園児がいたり、「今日は〇〇くんと食べる」「いつも一緒に食べてるのに」と言い争いが始まったりしても、よほどのことがない限り、先生はグループ「調整」の声をかけするだけです。自主的な行動を促し、人間関係の構築力や調整力、他者に配慮する感性を育むねらいがあるのだろうと感じました。「B園出身の児童は打たれ強い」という声が地元の小学校では聞かれるそうです。「自由昼食」もその一助となっているのではないのでしょうか。

マスクを外して登校する生徒がすこしずつ増えてきました。マスク無しの「おはようございます」の声にポスト・コロナを実感していますが、最大の変化の一つが昼休みの光景です。コロナ前の松蔭では、昼食のお弁当を「どこで」「誰と」食べてもかまいませんでした。桜の時期には校庭に下級生たちがずらっと並んでお弁当を広げていましたし、なかには教科準備室で先生と食べたり、相談室でカウンセラーの先生とお弁当を広げたりする生徒もいました。

4月に入って食堂も営業を再開し、GW明けには感染症対策の校内ルールを撤廃しました。これまで通り、ひとり自席で食べてもよし、グループで食べても、また、教室外に行ってもよし、ということになりました。「自席で黙食」ルールの終了は、「誰と食べようか」「どこで食べようか」「ひとりで食べようか」という小さな「選択」を迫ります。オフィス街のサラリーマンやOLにとって、誰とランチするかがお昼時の関心事という時代は終わり、一人でゆっくりとおにぎりやハンバーガーを頼る社員が増えているといいます。大学では、「ひとり席」カウンターを設けた大学もあります。グループで食べるにせよ、一人でくつろいで食べるにせよ、自他の小さな「選択」をリス

ペクトする感性も育む機会ともなるよう、見守りたいと思います。中学・高校生活には、日常の小さな「選択」から将来の進路決定といった大きな「選択」までそろっています。生徒の「内なる人」は、ポスト・コロナの日々でも新たにされ、人間の根っ子をつくっています。

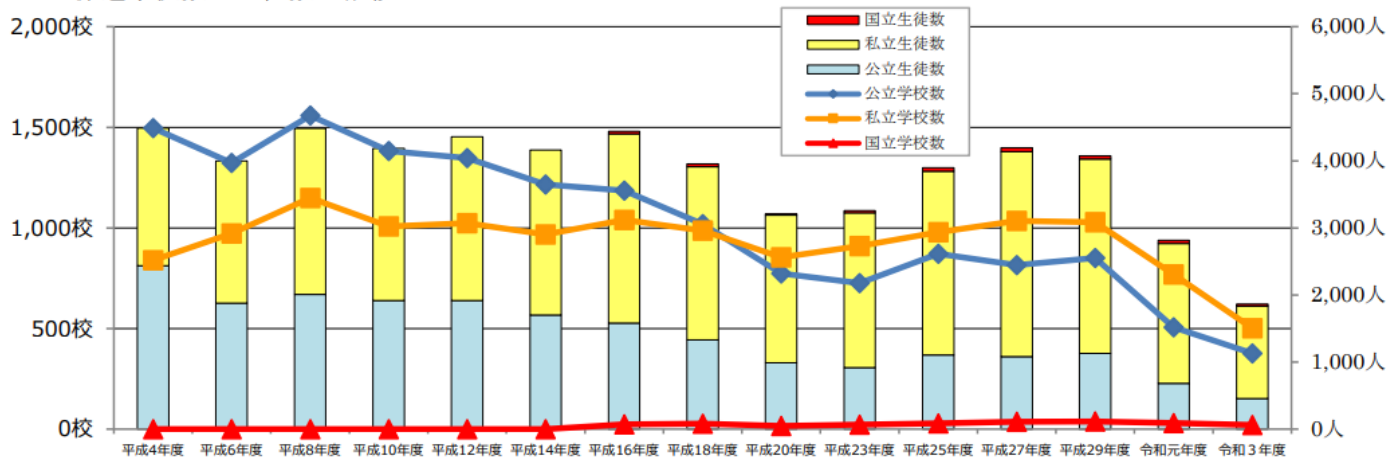
“跳びたて” “飛びたて” “翔びたて” 海外留学のすすめ

新型コロナウイルスに関連する入国制限が解かれました。国内各地でインバウンドが復活し、京都、大阪、奈良の街に外国人旅行者が溢れています。2023年4月の外国人観光客の入国者数の推計値は、194万9千人。コロナ前の水準（2019年4月入国者数は、292万7000人）にはまだ及びませんが、4月末に水際対策の措置や入国制限が終了していることもあり、5月以降の入国者数は一気に増えているでしょう。

日本から海外を訪問する旅行者も急増しています。全国の学校でも、海外研修や対面での国際交流プログラムを再開しています。本校も、夏休みに派遣するニュージーランド短期語学研修生20名、韓国での異文化体験研修生16名を決定し、現在、渡航手続きや事前学習の準備をすすめているところです。

文部科学省が、過去30年間に3カ月以上の海外留学を経験した高校生の人数の推移（下のグラフ）を公表しています。令和3（2021）年度は、感染症により半減していますが、一般的に右肩下がりとなっていることがわかります。漸減傾向の理由としては、少子化で学生・生徒数が減っていること、経済的な問題、若者の内向き志向などが指摘されています。多様な価値観に触れながら外国語習得を図る、中長期の海外留学は、人間力を高める大きなチャンスです。「グローバル社会」「ボーダーレス」と叫ばれる時代となって久しい今、高校生、大学生には勇気をもって海外生活にチャレンジしてほしいものです。本校では現在、高1生徒2名が1年間の海外留学制度を利用しています。両名（1名はすでに現地入り、もう1名は夏休みに出発します）とも単位認定留学生として、1年後に帰国し、高2に進級して復学する予定です。なお、本校独自の海外留学関係の奨学制度等については、下欄にまとめて掲載しています。

◆派遣学校数・生徒数の推移



* 「高校生の留学（3 か月以上）について」

（文部科学省 HP 令和 5 年 3 月 31 日発表「高等学校等における国際交流等の状況について」より転載）

一方、高校卒業後、海外の大学進学を目指す高校生が増えているという記事（「東洋経済オンライン」2021年5月9日配信）を読みました。海外の高等教育機関へ進学した国内の高校卒業生の人数（文部科学省 HP 「海外の高等教育機関等への進学者数」）によると、2021年度に海外大学・短大・語学学校・専門学校へ進学する人数は1,424人。内訳は、アメリカ（503人）、台湾（189人）、韓国（181人）、カナダ（138人）、イギリス（92人）などとなっています。上述の中長期の海外留学と同様に、アフターコロナの今後、この数字は増加するでしょう。専門業者によると、国内大学と海外大学との併願受験を考える高校生も増えているということです。松蔭高校からは、近年で

は韓国の延世（ヨンセ）大学・明知（ミョンチ）大学・啓明（ケミョン）大学、台湾の台湾大学などへ進学しています。

見出しのタイトルに「跳」「飛」「翔」の3文字を並べました。勇気を奮い、自分の足で「跳」び上がり、世界へ「飛」びわたることを決意してほしい。親元を離れて自分の力で大空を思いのままに「翔」び回ってほしいものです。2学期には、1年間の高校単位認定留学制度のガイダンス、および海外大学進学ガイダンスを希望者対象に開催する予定です。進路の選択肢の一つとして最新の情報をお伝えします。後日、保護者の皆様にもご案内を差し上げます。ご関心のある方はご出席ください。

<本校独自の海外留学関係の奨学制度>

① 年間の単位認定海外留学での奨励奨学金制度

○単位認定を伴う1年間の海外留学制度を利用して留学する高校生を対象に、留学期間中の高校授業料相当額を奨学金として給付します。1年間の授業料相当額は、校納金のうち学年費など諸費用を除いた額（約488,400円）です。

○留学開始までに、英検準1級またはCEFRスコアで同レベルの英語力に到達していると認められた場合、さらに特別奨励金（30万円）を追加して給付します。

② 夏休みの短期海外研修での奨学制度

○海外異文化研修（韓国）、短期語学研修（NZ）に派遣される中学生・高校生に対する奨学金。学業成績・学校生活において優秀で派遣生にふさわしいと認められる場合。さらに、英語検定などの英語力検定や韓国語能力試験（TOPIK）等に合格し、一定の語学力を持つと認められた場合、以下の奨学金が給付されます。

韓国研修：3万円 NZ研修：10万円

<公的な長期留学支援事業>

○文部科学省の「トビタテ！留学JAPAN 第2ステージ」や「国費高校生留学促進事業—長期派遣に係る留学給付金給付」等があります。奨学生としての採用には審査があります。

第1回「保護者おしゃべり会」のご案内

新入生の保護者の皆様は、「いったい何のおしゃべりを？」とお思いかも知れません。この会は、子供の学年の違いを越えて、親同士で思いを分かち合いながら、大人も元気になろう、という趣旨の集まりです。スクールモットーのとおりに「オープンハート、オープンマインド」に語り合える場にしたいと思います。

学校側より相談室カウンセラー（公認心理士）3名と私（校長）が出席します。近日中にClassiにてご案内します。

日時：7月3日（月）10：30～12：00 ＊期末考査期間中

内容：2023年度年間テーマ「娘との会話に活かすカウンセリングマインド」

第1回のお話「リフレーミング」（相談室 梅野カウンセラーより）

＊今後の話題としては、心理学やカウンセリングの分野で取り上げられることが増えている「マインドフルネス」「コンテイング」などを取り上げる予定です。